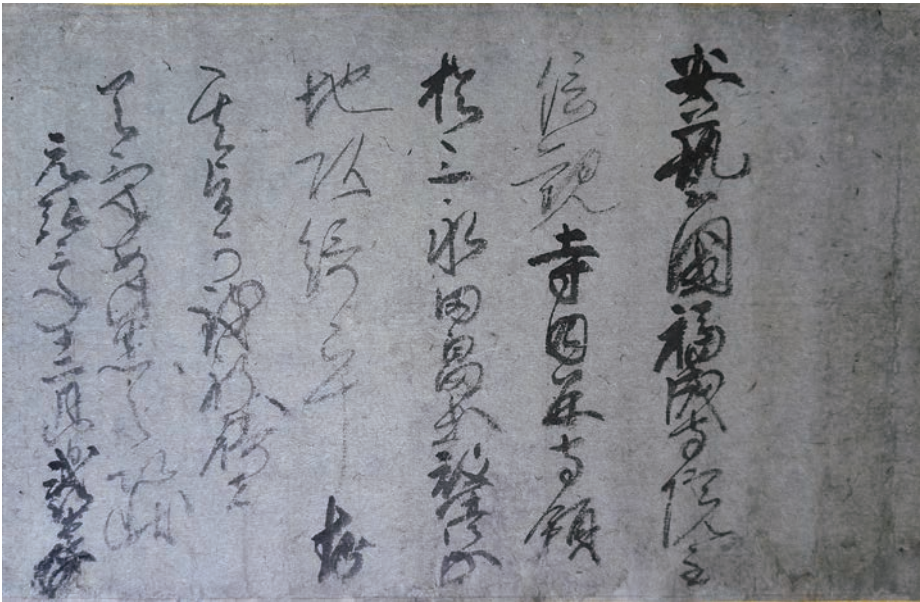


東広島市史編さんだより

第8号 令和8(2026)年9月1日



後醍醐天皇綸旨（福成寺蔵）

（釈文）

安藝国福成寺院主
信観寺内并寺領
於三永田畠等被停止
地頭綺畢存
其旨可致祈禱者
天氣如此悉之以狀
元弘三年十二月八日
式部大丞（花押）

（要約）

安藝国福成寺とその
領地である三永田畑
について、地頭は干
渉をやめるように。

この史料は福成寺に伝わる元弘3（1333）年12月8日付の後醍醐天皇の綸旨です。綸旨とは本来は「綸言の旨」の略で、蔵人所（天皇の秘書的な役割の機関。命令の取り次ぎや機密文書を扱った。）が天皇の命令を伝える文書のことです。通常、宿紙（しゆくし・すくし）という薄墨色の漉き返し紙が使用され、この史料も宿紙に書かれています。

綸旨は蔵人頭などが差出人になりますが、文頭か末尾に決まった文言を入れて、天皇の意志で作成された文書であることを示します。この史料の本文末尾の「天氣如此、悉之」という文言がそれに当たります。

福成寺縁起文によると、年代は不明ですが福成寺は鷹坂山に建てられた福納寺を元とする真言宗御室派の古刹です。山号・院号を表白山九品院と言います。

後醍醐天皇は自身の直接政治実現のために鎌倉幕府を打倒しようとした天皇です。その計画を幕府側に知られたため、元弘2年に隠岐へ流刑となります。この史料が作成される少し前の元弘3年の閏2月に後醍醐天皇は隠岐から脱出し、5月には鎌倉幕府が滅亡しています。

この綸旨の内容は地頭が福成寺とその領地へ干渉することを停止するよう命令するもので、福成寺が後醍醐天皇の庇護を受けていたことを示す貴重な史料です。

この史料は昭和53（1978）年10月4日に広島県の重要文化財に指定されています。

1

江戸時代の正月行事

今回は賀茂郡の「国郡志御用辻書上帳」から、江戸時代の正月行事を取り上げます。
この史料は賀茂郡の村数や村名、産業、名産、気候、風俗などが書かれた地誌です。
史料の内容から江戸時代のお正月の様子をのぞいてみましょう。
比較として『広島県川上村史』から近代の正月行事を一部抜粋してご紹介します。

国郡志御用辻書上帳とは

文政2（1819）年に作成された「国郡志御用辻書上帳」は、広島藩が地誌『芸藩通志』を編さんするため、各村から提出させた調査書を郡ごとに取りまとめたものです。

文化元（1804）年、広島藩8代藩主の浅野齊賢は、家臣の頼杏坪に17世紀後半に編さんされた『芸備国郡志』の改訂を命じました。

杏坪は各郡に地域の調査を命じ、まず各村で「国郡志下調書上帳」や「国郡志御用書上帳」などと呼ばれる資料が作成されました。「国郡志御用辻書上帳」は、こうした村々の調査書を郡単位で整理・集成したもので、それを基に『芸藩通志』が編さんされました。

これらには村の沿革や寺社、産業などが記されており、江戸時代後期の地域の様子を知ることができる貴重な史料となっています。

国郡志御用辻書上帳に記された正月行事

- 元旦
- 元旦は明け方から衣服を改め、水を汲んで大福茶（茶に梅干・山椒・昆布・黒豆などを入れたもの。）と煎茶を飲んで雑煮を食べ、身内で祝います。家族だけでなく、住込みの下働きの人達まで祝い酒を飲み、神棚と仏壇を拝礼します。
 - 庄屋の家などへ年始の挨拶に伺います。正月三が日は休みとします。
 - 家々には太鼓を打ちながら千寿万歳を唱え、祝言を謡う門付芸人が訪れ祝儀を受けていました。

- 二日
- 地祝…休めている田畑へ行き、2回鋤を打って「人もよかれ、我もよかれ」と唱える。餅・田作り・ユズリハ・橙・酒・米類を供えて土神を祀る。所によっては牛を田畑へ牽き出して鋤初め式を行うこともありました。他に織初め・経初め・木綿引き初めなどもありましたが、これらは式のみ行いその後は休日としていました。
 - 海辺では船に松竹を建て、菰朶・橙などを飾り、乗初めを行いました。神主を招いて船玉（船の守護神）に御神酒・米を供えて祀る所もありました。

「広島県川上村史」

牽綱の初め 牛の追い綱を神棚へ供える。
追い初め 牛を連れて氏神へ参拝する。

- 四日 僧・座頭（僧の格好をした盲目の人。琵琶や三味線を弾いたり、物語を語ったり、あんま・はりなどを仕事とした）が年始の儀礼を行いました。
- 七日 七草の節日または人日祝いと言って、休日にすることもありましたが、休まない人の方が多かったようです。七草は神棚へ供え囃子を唱えた後、粥に入れました。

「広島県川上村史」 山休み

山の神が新年宴会をするので山へ行くと怪我をするとされ、この日は山仕事をしませんでした。正力では「天狗かんしの日」とも言ったそうです。

- 十一日 物定・初寄合…庄屋や長百姓・年行司などの村役人が集まり、前年の村の収支を決算し、今年の予算組みをします。その後村の百姓を呼び集めて御法度や教訓、道しるべと去年の収支決算を読み上げました。これらの読み聞かせは正月以外にも農業の合間に行われることもありました。
- 牛馬を祝う…牛馬にいつもより良い餌を与え、庭や野原などで走らせて賑わう村々もありました。

「広島県川上村史」 牛正月・田打正月

朝雑煮を人だけでなく牛も食べました。牛の餅と言って別に団子を大きく作っていました。また、牛をきれいに飾り立て、1日遊ばせました。

○左義長（とんど・神明とも）

- 村々によって作り方は多少異なりましたが、概ね青竹5本を柱として四角錐に組み、古い大幣・守札・正月用の飾り・門松・子どもの手習などを飾りました。その後、神主がお祓いをして御神酒や米などを供えます。とんどは12、13日に作られ、14、15日迄に田畑や野原、海辺などへ持ち出して焼いていました。その際、三津村や白市村では「とんどや法成就」と囃していました。

- 十四日 とのへい…朝、子どもが銭差（銭をまとめるための紐）または牛の追綱、檜の葉類を大家へ持って行き、「とのへいとのへい」と言って持参したものを納めます。家からは米・餅・銭などの祝物を受取りました。午後に行くと、家の人から墨を付けられるので子どもたちは逃げ帰りました。夜に行う所もありました。

「広島県川上村史」 とのへい

夜、ワラで作った「スボ」を家の中へ投げ込んで「とのへい、とのへい」と唱え暗がりへ隠れます。家からは「スボ」へ餅を入れて投げ返して来ますが、これを取ろうとすると家から水をかけて来ました。

2 市史の資料を集めています

資料を求める呼びかけに応じて貴重な資料をご提供いただいております。皆様のご協力に感謝申し上げます。

まちの歴史や東広島市らしさを語ってくれる次のような資料を引き続き探しています。

- 古い書物や手紙、日記
- 昔の行事のチラシや新聞記事
- 東広島市域で撮影された風景写真や家族写真
- 古い絵葉書
- 古い町並みなどを記した地図や絵図
- 和紙に墨で書かれた書状や帳面^{すみ}

このような資料があるときは、ぜひこちらへご連絡ください。皆様の情報提供をお待ちしています。

〒739-8601 東広島市西条栄町8番29号
東広島市教育委員会
生涯学習部文化課 市史編さん係
TEL：082-420-0977 FAX：082-422-6531



事務局通信

5月30日に開催された白市むしろ鳥居まつりへ行ってきました。暑い中でも多くの人で賑わっていました。

この祭の元となった牛馬市は文政2（1819）年の白市の国郡志御用書上帖にも書かれており、毎年4月6日から15日までの10日間行われたとあります。その昔は春に15日間市が立っていましたが、次第に春に10日、秋に5日行うようになり、秋は8月7日から5日間市が立っていたそうです。当時、牛馬市には見世物など立ち並び、賑わっていたようです。



東広島市史編さんだよりー第8号ー

発行日 令和8（2026）年9月1日
編集・発行 東広島市教育委員会 生涯学習部 文化課 市史編さん係
〒739-8601東広島市西条栄町8番29号
TEL: 082-420-0977 FAX: 082-422-6531
E-mail: hgh200977@city.higashihiroshima.lg.jp
印刷 一般社団法人東広島自立支援センターあゆみ